

ISO 39001のご提案

～2024年問題を抱えた今こそ～

体系的、持続的に課題に取り組み運営効率を上げるために

『ISO 39001』とは…

**地域の特性を考慮しながら、
道路交通安全を向上させるための効果的な
マネジメントシステムを確立することが目的**

この目的を達成することで、日本における道路交通安全の向上が図られ、社会全体の安全性と安心感が増すことが期待されています。

**ISOは、人材と組織（会社）を成長させ、
経営のステージアップ（成功）に導く取り組みです。**

1. 組織の社会的責任の遂行

■ 交通事故の削減

がん死亡者数と比較すると交通事故死亡者数は約1/144。

しかし、そこには「加害者」と「被害者」、「車」と「歩行者」という、数字では現しきれない重い責任が存在しています。

社用車が、従業員が、ひいては企業が負う社会的・経済的制裁の影響を減らすには、いかに社内での警告を拾えるかマネジメントシステムの構築が有効です。

がん死亡数：
385,797人(2022年)

交通事故死亡者数：
2,678人(2023年)



■ 組織運営の効率化

2024年問題を抱え、リソース(人材、時間、資金など)の効率的な管理を通じて、組織全体の運営効率を向上させ、無駄のない安全対策を講じることが可能になります。

2.従業員が交通事故の加害者になると

■信用の低下

ブランドイメージの損傷。ディアなどで非難をうけることがあると企業は社会的な信用を失い顧客離れに繋がる。

■経済的影響

賠償責任。保険料の上昇は企業の経費に直接影響する。

■法的影響

法的責任を問われる可能性。罰金、業務停止命令など、企業が安全管理義務を怠っていた場合にはさらに厳しい制裁を受ける可能性もある。

労働基準監督署や警察などの監査を受けることがあり、業務改善命令などの行政指導をうけることも。

■内部影響

従業員の士気の低下。離職率が上昇することも考えられる。

事故対応や調査、再発防止策の実施などに時間とリソースが割かれ、通常業務に支障がでることも。



これらの影響を少なくするために



3. 事業の課題を特定する

■ 主な要求事項

組織の状況の理解	・ 外部および内部の課題の特定・ 利害関係者のニーズと期待
リーダーシップ	・ リーダーシップをコミットメント ・ 道路交通安全方針・ 組織の役割、責任、および権限
計画	・ リスク及び機会の評価・ 道路交通安全目標・ 変更の計画
支援	・ リソース・ 能力・ 意識・ コミュニケーション・ 文書化された情報
運用	・ 運用の計画および管理・ 緊急事態への準備および対応
パフォーマンス評価	・ モニタリング、測定、分析、および評価・ 内部監査・ マネジメントレビュー
改善	・ 不適合および是正処置・ 継続的改善

4. ISO39001の変遷



誕生／発行	2012年10月に国際標準化機構によって正式に発行。この規格は道路交通事故による死亡者や重症者を減らすための管理システムを提供することを目的としている
背景	国際連合の道路安全に関する取り組みの一環として開発され、国連の「道路交通のための10年行動計画」が含まれている
規格の内容	道路交通安全 (RTS) マネジメントシステムの構築と実施に関する要求事項を定めている。
更新と改訂	ISO規格は通常5年ごとにレビューされ、必要に応じて改訂が行われる。最新の科学的知見や技術進歩を反映するために定期的に見直しが行われている。
世界的な適用	【効果の確認】 ISO39001の導入によって、事故の減少や交通安全意識の向上が実証されている。認証取得企業では事故率の減少が報告されている。

5. 『マネジメントシステム』とは

■ 『マネジメントシステム』

品質管理や環境保護、食品安全等の各分野のISO規格の要求事項に従って会社を運営するためのルールを作り（「規定」、「手順」等）、そのルールを運用するための役割、責任及び権限の体制を整えるものです。各分野のISO規格の目的（目標）を達成するために組織を指揮・管理するための『仕組み』がマネジメントシステムであります。

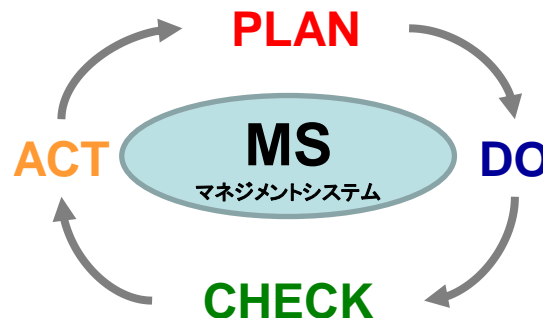
■ 『マネジメントシステム』の運用

マネジメントシステムの『仕組み』は、下図の構造を採用しています。決めた活動計画を運用し、見直し、改善していく『PDCA』に基づく運用を行い、レベルアップを行うことが求められています。



- 会社の現状を把握する
- 役割、責任及び権限等の体制を整備する
- リスクや機会への対応、目標達成のための活動を計画する

- 監視・測定（点検）によって得られた情報をもとに現状・体制・活動計画の見直し、改善を行う



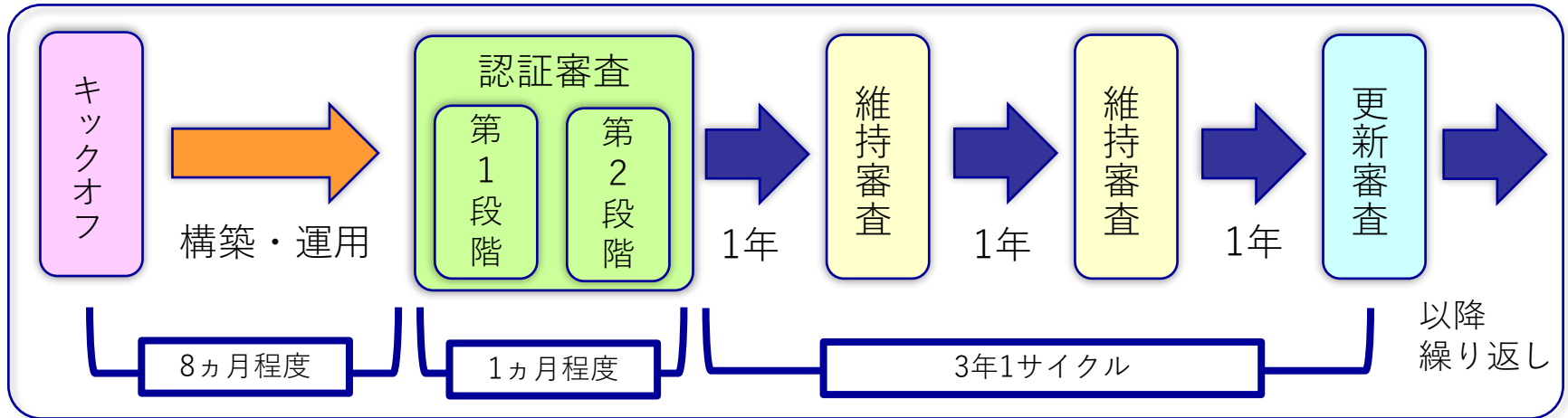
- 人、物、情報等の資源を管理する
- 教育・訓練の実施、意識向上によって人のレベルアップを行う
- ルールの明確化、活動の確実化のための文書・記録を管理する
- 日常業務において決めた活動計画を実践する

- 実践した活動を監視・測定（点検）する

6. 認証取得までの流れと活動

	第1月	第2月	第3月	第4月	第5月	第6月	第7月	第8月	第9月
取組み流れ	キック オフ	構築		運用			審査対応		ISO39001 認証取得
	<ul style="list-style-type: none"> ① 認証範囲の決定 ② 体制決定 ③ 既存文書の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ④ 文書作成 	<ul style="list-style-type: none"> ④ 文書作成 ⑤ 審査機関の選定 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥ 社内展開 ⑦ 運用開始 		<ul style="list-style-type: none"> ⑧ 内部監査の実施 ⑨ マネジメントレビュー 	<ul style="list-style-type: none"> ⑩ 審査受審 ⑪ 審査対応 	<ul style="list-style-type: none"> ⑫ 審査受審 ⑬ 審査対応 	
コンサルティング実施事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 認証範囲の特定 ② 業務・手順等の洗出し 	<ul style="list-style-type: none"> ③ 文書構築 		<ul style="list-style-type: none"> ④ 運用開始 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 教育研修 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥ 内部監査 ⑦ 審査準備 	<ul style="list-style-type: none"> ⑧ 第1段階審査対応 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 第2段階審査対応 	

7. 審査



《認証審査》

ISO認証を取得するための審査です。構築したマネジメントシステムがISO規格の要求事項に適合していることを確認する『第1段階』と構築したマネジメントシステムと実態が適合していることを確認する『第2段階』で構成されます。（有効期間3年）

《維持審査》

ISO認証を維持するために1年または半年に1回、マネジメントシステムの運用状況を確認する審査です。一般的には1年に1回の維持審査を受けます。

《更新審査》

ISO認証を更新するための審査です。認証審査（第2段階）と同様の審査を行います。